

## 東レ科学技術研究助成金受領者代表挨拶



京都大学医生物学研究所教授 伊藤 能 永

僭越ではございますが、受領者10名を代表いたしましてご挨拶申し上げます。このたびは、由緒ある東レ科学技術研究助成金を頂き光栄に存じます。謹んでお礼と感謝を申し上げます。また私どもを推薦してくださいました学会ならびに推薦人の先生方、そして選考委員会の先生方に、厚く御礼申し上げます。

私の研究助成テーマを簡単にご紹介いたします。自己免疫疾患は、免疫系が自己を攻撃することと起こります。時に命に関わる難病ですが、対症療法しかないのが現状です。T細胞と呼ばれる免疫細胞が、何らかの自己構成成分、自己抗原、を認識して攻撃を開始することが原因と考えられています。そのため、この標的自己抗原を明らかにして病因T細胞を抑えることが根本治療として有望です。ただこれが技術的に難しく研究が進んでおりませんでした。私はこれまでに、自己抗原の同定法を開発し、自己免疫疾患の標的抗原を明らかにしてきました。またその研究の過程で標的自己抗原はいくつもありそうだということが明らかになってきました。本助成金でサポートしていただく研究では、これらの標的自己抗原をより包括的に解析、理解し、疾患治療の標的となる抗原を明らかにして参ります。頂いた助成金は疾患モデルマウスの作成などに使わせていただきます。

私はこれまで米国のハーバード大学で研究して参りましたが、昨年より京都大学医生物学研究所に異動し、新たな研究室を立ち上げているところです。本研究助成金を頂き研究環境を整えることができますことを大変幸運なことと心から感謝しております。近い将来、皆様に最新の成果をご報告できればと願っております。本日は誠にありがとうございました。